

「新おおいた子ども・子育て応援プラン」推進に向けたご意見・ご提言

6/8県民会議
資料5

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
<p>赤坂 睦美 (あかさかむつみ)</p> <p>公募委員</p>	<p>「親の語り場づくり&積極的な学びの支援」</p> <p>① 配偶者や祖父母などと同様、友人・知人も子育てにおいては大きな心の支えとなる。仲間には情報交換や悩みの共感ができるといったメリットがある。現在、地域に集いの場はずいぶん増えてきたが、親が少し子どもから目を離して、語り合える時間をつくるために、近くで子どもを見守ってくれるスタッフがもっと増えるとよいのではないか。</p> <p>② 乳幼児の救急救命や離乳食の講習、子育てに関する講演会など、子育てに関する様々な学びの機会に参加できるような支援態勢を整えてほしい。</p>	
<p>飯田 法子 (いいだのりこ)</p> <p>大分県臨床心理士会</p>	<p>「子どもの発達に添った支援環境を」</p> <p>近年、子どもを家庭だけではなく地域で育てようという動きが社会に浸透してきている観があり、この流れを大変嬉しく思っています。また、心理士会としてもさらに子育て支援に協力させて頂きたいと思っているところです。</p> <p>ところで今、仕事上でも母親としても気になっているのは、親や地域・学校の指導者が、勝ち負けのある様々な活動にのめり込み、そのために子どもたちが疲弊している姿です。時に頑張りすぎて体を壊したり、うつ病になったり、不登校になったりする生徒もいます。月曜日は、連日の練習試合で疲れ果てた子どもが、保健室で休むことが多いことも見聞きします。努力する子どもを応援したい気持ちは理解できますが、大人は子どもの心身の発達をトータルに考えた支援をする必要があると思うのです。</p> <p>また、指導の中で、大人が自身の問題を子どもに投影し、虐待の構図に似た問題が生じないようにジュニアスポーツや部活動などへの取組に、注意を払っていく必要があると思っているところです。</p> <p>そのための、研修の機会をさらに充実させていくことが望まれると感じています。</p>	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
伊東真美 (いとうまみ) 日本労働組合総連合 会大分県連合会	「ワーク・ライフ・バランス」 夫婦で行う子育て、特に夫の育児への参加を推進することで、女性の働きやすさにも繋がるはずです。PTA活動等にも、父親やひとり親が参加しやすい職場の体制づくりが必要ではないでしょうか。	
宇根谷孝子 (うねたにたかこ) 立命館アジア太平洋 大学	「子育ても仕事もしやすい社会の実現」 大分県の「総合的な子育て満足度」で最も低い項目は「夫も妻と同じように子育てを行う」である。男性の家事・育児関連時間は36分で、目標値(1時間45分)の34.3%である。 男性の育児参加を促進するためには、男性のみならず、企業の理解と協力が不可欠であり、特に中小企業向けの取組支援が今後必要であろう。県としては、育児休業制度などの導入促進、社員間の情報共有、制度を活用しやすい環境づくり(例：交替の好事例)など様々な情報提供をしてはどうか。	
衛藤 祐治 (えとうゆうじ) 大分県児童養護施設 協議会	「きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援」 ① 乳児家庭全戸訪問事業は高く評価される事業だが、発見後にどの様な対応をどこが継続的に行っていくのか明確にしてほしい。 ② 児童相談所の体制強化 適した人材を配し、専門性を高めてほしい。 ③ 里親委託率向上を目指すと同時に、支援体制も充実してほしい。	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
大森洋一 (おおもりよういち) 大分県中小企業団体 中央会	「ひとり親家庭への支援」 母子家庭の場合、父親不在の中で子育てする難しさ、悩みを耳にすることがあります。特に、思春期の時期に悩むお母さんが多いようです。 例えば、父親代わりとして子どもと遊んだり、話し相手をしたりするボランティアを派遣する等の取組を行ってはどうでしょうか。	
小野孝子 (おのたかこ) 大分県小中学校長会 協議会	「育児・子育てにかかわる時間の確保」 ① 園や学校、PTA行事に参加しやすい職場環境づくりの推進を図る。 ② 子どものための看護休暇や有給休暇が取りやすい職場の協力体制や雰囲気づくりについて企業への啓発を図る。 ③ 親と子が関わり合う時間の確保（例えば、親子読書の推進） ④ 「親学」の推進を図り、子育てに対する保護者の意識向上を図る。 （「親学のすすめ」読本の利用促進）	
斉藤由美子 (さいとうゆみこ) 公募委員	「今後の課題点を探る」 (新プランP127の一覧より、達成状況の低いものを思考してみる。) ① 父親の子育てに関する事項について ○父親も一緒に参加できる、講演会や講習会を企画する。 ○作成されたミニコミ誌の配布とあわせ、さらに読みやすいリーフレットを作成する(可能であれば手書き風がよい)。 設置場所や配布方法についての検討。 ○達成率をアップさせるには、企業に向けた啓発は必須である。 ○学校では「おやじの会」が活躍している。同様に、父親の育児サークルを立ち上げてみては？ ② 情報の提供について ○ネットや情報に辿り着くまでの宣伝が不足している。新聞掲載はどうか。 ③ 子どもたちの健やかな育ちについて ○自己肯定感の低下は、今後日本の教育の課題となる問題。様々に案はあるが、まずは読書環境の充実を。 情報化社会が便利になる一方で、不断の働きかけが必要である。	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
<p>佐藤新太郎 (さとうしんたろう)</p> <p>公募委員</p>	<p>「ワーク・シェアリング」</p> <p>正規労働者に負担が集中しがちで、超過勤務の常態化等から育児・家事に従事する時間が奪われている。一方の非正規労働者は、経済的不安から将来への希望を失いかけている現状がある。</p> <p>語弊はあろうが、企業の正規労働者を除いては人材育成に投資することが困難な状況にあって、社会に出た若者の教育はどこが担うのだろうか。若者の「非活動」状態は社会にとっても大きな痛手である。</p> <p>「同一価値労働・同一賃金」の原則はどこにいったのか。若者にも雇用の場を与えることで、若者を育てる必要がある。みんなで仕事をし、みんなで貧乏をすればよいではないか。</p> <p>ワーク・シェアリングの効用は幅広い。高付加価値を生み出す創造性、短時間当たりの生産性を上げる活力、これらはゆとりの中から生まれやすい。</p> <p>ゆとりある職場は、ゆとりある家庭・地域を生み出すことにもつながっていく。</p>	
<p>佐藤康成 (さとうやすなり)</p> <p>大分市 おやじネットワーク</p>	<p>「男性の子育て参画の促進」</p> <p>幼稚園・小学校・中学校・高校での「おやじの会」の拡充支援、「おやじの会」と地域との連携強化（地域の子育てリーダーの育成）</p> <p>「地域における子育て支援の充実」</p> <p>① 課題のある家庭への一歩踏込んだ支援強化のため、小中学校教員や民生児童委員の増員、並びに支援強化のための職務知識アップ</p> <p>② 市町村レベルでの具体的な子育て支援強化策の策定</p> <p>③ 県議会・市町村議会の子育て支援・バックアップ強化（大分市は市議会で「子ども条例」を計画中）</p>	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
仙波 美鈴 (せんばみすず) 大分県経営者協会	「子育ても仕事もしやすい環境づくり」 指標の「男性の家事・育児関連時間」と「夫も妻も同じように子育てを行う」が目標値に達成するには企業等のワーク・ライフ・バランスの推進が不可欠だと思います。育児休暇の取得とともに、対象年齢（6 歳未満）の子どもを持つ親（男性）には、ノー残業デーを導入するなど、育児に関わる時間が増えれば、より目標値に近づくと考えます。	
武田 寛 (たけだひろし) 大分県商工会議所連合会	「子育ても仕事もしやすい環境づくり」 おおいた子育て応援共同宣言に沿った取組を具体的に進める必要があると思うが、現下の経済状況の中では、中小企業にとって、なかなかハードルの高いものが多いのも事実。先進事例等を数多く紹介することが有効ではないか。	
土谷 修 (つちやおさむ) 大分県保育連合会	「拠点とアウトリーチ」 （ホームスタートの活動を通じて）	
土居 孝信 (どいたかのぶ) 大分県私立幼稚園連合会	「子育て満足度日本一を目指して」 ① 大人の立場と子どもの立場という視点からみて、2つのステージにおいて大人の立場の施策が多く、子どもの立場の施策が少ないように思う。 ② 良質な育ちが満足度の中心にあるべきである。 ③ 的な整備に伴い、質の確保が必要である。 ④ 子ども自身の健やかな育ちがあってこそ、子育て満足度が高められるということが大切だと思います。	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
藤内 和子 (とうないかずこ) 大分県高等学校長協会	「子育て支援サービスの情報提供」 ① 県の取組が子育て中の方々にまで十分に行き届くツールが必要。 身近なところに情報源を設置してはどうか。 (利用頻度が高いと思われる小児科、保育所、産婦人科、児童館等と連携) ② 地域子育て支援拠点の積極的PRを。 ③ 長期的には、将来親となる高校生が共にワーク・ライフ・バランスや子育て支援サービスについて学習することが、このプランの推進に繋がると 思われる。	
橋本 順子 (はしもとじゅんこ) 社会保険労務士	「男性の育児参加の促進」 ① 女性が子ども産み育てながら仕事を続けて行くには、男性の育児に対する理解、協力が重要です。 男性が積極的に育児に関わっていけるように、制度整備が必要です ・出産日前後の特別休暇制定、取得促進 ・男性の育児休暇取得促進 ・年次有給休暇取得率向上促進 ② 効果的な広報の在り方 「大分県乳幼児医療費助成制度」を積極的に広報しましょう。	
日高スミエ (ひだかすみえ) 大分県PTA連合会		

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
<p>広瀬通隆 (ひろせみちたか) 大分県社会福祉協議会</p>	<p>『『サロン』機能の広がり事業』(ご紹介)</p> <p>本年度から、県社会福祉協議会では、市町村社会福祉協議会(以下、市町村社協)の実施する「サロン」機能を拡張して、見守りネットワークに取り組みます。</p> <p>「サロン」は、家に閉じこもりがち、話し相手・相談相手がいない、寂しいといった不安や悩みを持っている子育て中の親子等が身近な場所で「楽しく」「気軽に」集い、「仲間づくり」「健康づくり」、「情報交換」等を行う場です。そのサロン機能に着目し、サロン活動を通じての地域の見守りの輪を広げる見守りネットワークに取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の生活課題・問題の発見 ・参加者を通しての参加者の生活課題・問題の発見 ・サロンに参加しない人の生活課題・問題を参加者より情報収集 <p>サロン活動を通じて把握された生活課題や問題を地区(校区)社協、市町村社協、行政、専門機関と連携し、解決・支援を図ります。</p>	
<p>藤本 保 (ふじもとたもつ) 大分県医師会</p>	<p>「子育て支援サービスの充実」</p> <p>① 市町村が提供する事業(サービス)に差があること。 (本当の充実とは何か)</p> <p>② 評価の指標として、利用した人を対象に満足度を求めれば大部分は良い結果になる。サービスが受けられない人に不満を感じていないか問う必要がある。 (例:〇〇市では、こんな事業があります。あなたの地域にないことに、不便や不満はありますか?というような問いも必要。)</p>	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
棕野美智子 (むくのみちこ) 大分大学	「すべての子育て家庭へ必要な支援を」 認可保育所利用者だけでなく、すべての子育て家庭に必要な支援が公平に行われるように、特に認可外保育所の質の向上のための助成と利用者負担の軽減、専業主婦家庭に対する子育て支援の充実を重点的に進める必要があります。 (参考 国で検討を進めている「子ども・子育て新システムの基本的方向」 http://www8.cao.go.jp/shoushi/10motto/08kosodate/pdf/houkou.pdf)	
	「男性の育児参加の促進」 妻が働いていない男性でも取得の必要性が理解されやすい、産後8週間の男性の育児休業取得キャンペーンを重点的に行うことを提案します。 (参考「さんきゅうパパプロジェクト」 www.fathering.jp/sankyu)	
	「外遊びの勧め」 挑戦欲、自尊感情、体力を育む上で「外遊び」が重要です。その一つの場としての冒険遊び場づくりを住民と行政の協働で進められないでしょうか。 (参考「『外遊び』の力を次の世代に」 http://ipa-japan.org/asobiba)	
	「当事者の参画と市町村」 子ども・子育て応援の多くは、行政としては市町村が中心になって進めることとなります。県としては、市町村での応援が効果を上げるための (ア) 当事者である若い世代の応援施策の立案、推進への参画 (イ) 県内市町村の施策の評価に重点的に取り組むこと を提案します。 (参考 につぼん子育て応援団緊急声明 http://nippon-kosodate.jp/pdf/0529kinkyuuseimei.pdf)	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
<p>山岸 治男 (やまぎしはるお) 大分大学</p>	<p>「地域における子育ての支援」</p> <p>昔ながらの地域の祭りや風習が失われつつある。行われていても観光イベントとしての色合いが強いように思える。昔はこういった行事を通じて、子どもたちが地域の大人たちとふれあい、生きるために必要なことを学んでいた。祭りが持つ本来の意味や役割をもう一度見直す必要があるのではないかな。</p> <p>「ワーク・ライフ・バランス」</p> <p>① 共働きの家庭にとって、放課後児童クラブは大変助かる制度であるが、同じ小学校に通う子が、帰宅する組とクラブに通う組に分かれてしまい、一緒に遊んだり学んだりができずらい側面もあるのではないかな。地域によっては、放課後児童クラブと放課後こども教室の交流が図られているようだが、柔軟な運営を行う等、工夫が必要ではないかな。</p> <p>② 共働きでも、子どもが小学生の間は親が家にいて帰りを迎えるなど、子どもの成長に併せて、働き方や生活サイクルが工夫できるよう、制度・仕組みについての検討も必要ではないかな。</p>	
<p>吉弘貞子 (よしひろさだこ) 大分県商工会連合会</p>	<p>「子どもにとって安心・安全なまちづくり」</p> <p>私たち商工会女性部は、地元（地域）での商工業者として地域に密着・連携が深く、各店先での子どもたちへの声掛け運動等、実施できるのではないかなと思っています。実際「困った時はいつでもおいで」ステッカーを掲示している商店や事務所があります。登下校中や来店の際のちょっとした声掛けを心掛けて活動していきたいと思っています。</p>	

氏名 団体・機関・所属等	ご意見・ご提言	備考
渡部恵美子 (わたなべえみこ) 公募委員	「地域における子育て支援の“わ” ～拠点「花っ子ルーム」の取組を通じて～」 ① 就労支援 仕事をしている人も利用しやすいように土曜日も開所。6月から病後児保育事業に取り組みます。スタッフや利用者の様々な経験を生かし就労支援に取り組んでいます。 ② 男性の育児参加 パパさんが利用しやすいように土曜日にパパ行事を実施。4月から部屋が広がったので、パパさんの利用も増えています ③ アウトリーチ 地域子育て支援拠点ネットワーク実行委員会に参加し、アウトリーチという課題にどう取り組むか考えてきました。「花っこルーム」ではまず健診時にベビーマッサージ講座の紹介をしました。	
渡部さおり (わたなべさおり) 大分合同新聞社	「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」 「社会全体で子育てを支援する」という理念の下、大きなお金が子育て家庭に支給されようとしています。賛否両論を耳にする中、「子育てを社会が支える」という意識は、まだまだ浸透しておらず、子育ての責任を家庭が全て負っている現実を実感しました。 県でも、すばらしい施策をプランの中で明記していますが、それを効果的に実行するには、意識づくりが進んでいくことが重要だと思います。子どもが暮らしやすい社会は大人も暮らしやすい社会であり、それをつくるのは一人ひとりの思いなのであります。	
渡邊麻里子 (わたなべまりこ) 大分県民生委員児童 委員協議会	「これから必要とされる支援の方法『アウトリーチ』」 1週間前、小1女兒、保育園男児、1歳女兒の3人の子どもがいる若い母親が自殺しました。夫と夫の母、3人の子どもと6人の家族でしたが、昨年出産後から、うつ症状になっていたと死亡後に耳にしました。生前中、悩みを聴く機会に出会えず、残念でなりません。平成8年から自由参加の子育てサークルを開いていますが、彼女たちは一度も参加したことはありませんでした。どのようにしたら関わりが持てるのでしょうか。	